

平成29年度新教育課程説明会 外国語活動・外国語（小学校）

群馬県教育委員会

1

外国語活動・外国語科の導入の趣旨と要点

P.5 下5行目

- 小学校では、平成23年度から高学年において外国語活動が導入され、その充実により、児童の高い学習意欲、中学生の外国語教育に対する積極性の向上といった成果が認められている。



その一方で、

2

外国語活動・外国語科の導入の趣旨と要点

P.5 下3行目～

<課題>

- ・ 音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていない。
- ・ 日本語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習において課題がある。
- ・ 高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められる。
- ・ 学校間の接続が十分とは言えない状況が見られる。

など

3

外国語活動・外国語科の導入の趣旨と要点

P.6の2つめの○

- 小学校中学年から外国語活動を導入し、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習の動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視することとしている。



- | | | |
|----------|---------|--------|
| ・ 第3、4学年 | 「外国語活動」 | 35単位時間 |
| ・ 第5、6学年 | 「外国語科」 | 70単位時間 |

4

外国語活動の目標 P.8枠内

○ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 P.8の下2行目～

○外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」

P.9の3行目～、及び下3行目

相手に十分配慮したりすることが重要
→小学校における外国語教育が重視

P.9の6行目～

外国語で表現し伝え合うためには、適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理するとともに、自分の考えなどを形成、再構築することが重要。

外国語活動の目標 P.8枠内

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 高学年「基礎」

知識及び技能

P.10枠内

三つの柱で設定

- (1) 外国語を通して、言語や文化について**体験的に理解を深め**、日本語と外国語との**音声の違い等に気付く**とともに、外国語の**音声や基本的な表現に慣れ親しむ**ようにする。

思考力・判断力・表現力等

P.11枠内
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを**伝え合う力の素地**を養う。

学びに向かう力、人間性等

P.12枠内
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、**相手に配慮**しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

高学年「他者に配慮」

6

各言語の目標及び内容等

P.14枠内

英 語

1 目 標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、**聞くこと、話すこと【やり取り】、話すこと【発表】**の**三つの領域別に設定する目標**の実現を目指した指導を通して、**第1の(1)**及び

知識及び技能

(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その

思考力・判断力・表現力等

過程を通して、**第1の(3)**に示す資質・能力を育成する。

学びに向かう力、人間性等

7

3つの領域別目標

各言語の目標及び内容等

P.15~

(1) 聞くこと

ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す**簡単な語句**を聞き取るようにする。

イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する**基本的な表現の意味**が分かるようにする。

P.16枠内

ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、**どの文字であるかが分かる**ようにする。

この目標では、文字の読み方の発音を聞いて、それが表す文字が分かるようにすることを示している。ここでいう「文字」とは、英語の活字体の大文字と小文字のことであり、「読み方」とは文字の名称を指している。活字体の文字の名称の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれたその文字と結び付けるなどにより、どの活字体を表しているかを理解するものである。

(2) 話すこと [やり取り]

ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。

イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

高学年 「その場で」質問したり答えたり
中学校 即興で話すことにつながる

(3) 話すこと [発表]

ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

イ 自分について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

各言語の目標及び内容等

P.20～P.23

2 内容

〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴等に関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を**体験的に身に付けることができるよう指導**する。

ア 言語を用いて**主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知る**こと。

イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。

(ア)英語の**音声やリズムなどに慣れ親しむ**とともに、日本語との違いを知り、**言葉の面白さや豊かさに気付く**こと。

(イ)日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、**多様な考え方があることに気付く**こと。

(ウ)異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、**文化等に対する理解を深める**こと。

11

各言語の目標及び内容等

P.23～P.24

2 内容

〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、**相手に配慮しながら**、伝え合うこと。

イ 身近で簡単な事柄について、**自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりする**こと。

12

各言語の目標及び内容等

P.24～

2 内 容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2) に示す事項については、(1) に示す事項を活用して、例えば次のような言語活動を通して指導する。

P.25 1行目

中学年の外国語活動の英語の目標に掲げられた「聞くこと」「話すこと[やり取り]」及び「話すこと[発表]」の三つの領域ごとの具体的な「①言語活動に関する事項」に示された言語活動を通して指導することや、「②言語の働きに関する事項」を適切に取り上げて指導が行われる必要がある。

→言語活動が3領域別で整理

各言語の目標及び内容等

3領域の言語活動

P.25～P.27

2 内 容

ア 聞くこと

(ア)身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いて**おおよその内容が分かったりする**活動。

(イ)身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表す**イラストや写真などと結び付ける活動**。

P.26枠内

(ウ)**文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける**活動。

P.26下3行目

例えば、文字の名称を表す読み方を聞いて、活字体で書かれた文字を指したり、発音された順に文字カードを並べ変えたり線でないだりして、「読み方」と「文字」を一致させていく活動などが考えられる。

移行措置として実施する15時間に含まれる内容

2 内容

イ 話すこと **【やり取り】**

場面設定を大切にす

(ア)知り合いと**簡単な挨拶**を交わしたり、**感謝や簡単な指示、依頼**をして、**それらに応じたりする活動**。

P.27下8行目

言葉のやり取りだけに終始するのではなく～

(イ)自分のことや身の回りの物について、**動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う**活動。

伝え合う:一方向ではなく双方向で感情や情報についてのやり取りがある活動

P.28イの3段落目

児童が興味・関心を抱き、「伝え合う」ことへ～

(ウ)自分や相手の好み及び欲しい物などについて、**簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動**。

P.28一番下の行

主体的にコミュニケーションを図ろうとする～

2 内容

ウ 話すこと **【発表】**

発表活動が必ず授業の中に入ってくる

(ア)身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを**見せながら**話す活動。

P.29アの2段落目

例)好きな漢字やお気に入りの場所の写真、カードの数や形状

(イ)自分の好き嫌いや、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを**見せながら**話す活動。

P.30の2行目～

例)自分の好きな物や苦手な物についてのイラスト→自己紹介

(ウ)時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを**見せながら**、自分の考えや気持ちなどを話す活動。

P.30ウの2段落目

例)校内のお気に入りの場所のイラストや写真→自分の気持ち

各言語の目標及び内容等

P.30~P.33

②言語の働きに関する事項

具体的な場面設定を大事にしている

ア 言語の**使用場面**の例

(ア) 児童の身近な暮らしに関わる場面

- ・ 家庭での生活
- ・ 学校での学習や活動
- ・ 地域の行事
- ・ 子供の遊び など

例1) 家庭での生活: I wake up at 6:00. I go to school. I go home. I take a bath.

(イ) 特有の表現がよく使われる場面

- ・ 挨拶
- ・ 自己紹介
- ・ 買い物
- ・ 食事
- ・ 道案内など

例1) 挨拶: Good morning. / Good afternoon.

各言語の目標及び内容等

P.33~P.36

②言語の働きに関する事項

(ア)~(オ) 中学年・高学年・中学校で統一

イ 言語の**働き**の例

身振りや表情、ジェスチャーの活用も重要

(ア) コミュニケーションを円滑にする

- ・ 挨拶をする
- ・ 相づちを打つ など

(イ) 気持ちを伝える

- ・ 礼を言う
- ・ 褒める など

(ウ) 事実・情報を伝える

- ・ 説明する
- ・ 答える など

(エ) 考えや意図を伝える

- ・ 申し出る
- ・ 意見を言う など

P.35エの下

例) I like Mondays.

(オ) 相手の行動を促す

- ・ 質問する
- ・ 依頼する
- ・ 命令する など

3 指導計画の作成と内容の取扱い

P.36～P.38

(1) 指導計画の作成上の配慮事項

指導計画の作成に当たっては、第5学年及び第6学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、三つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

P.37の3段落目最後

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要

イ 学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語活動の目標の実現を図るようにすること。

P.38イの下最後の行

各学校が主体的に学年ごとの目標を定め、2学年を通して中学年の外国語活動の目標の実現が図れるよう配慮

3 指導計画の作成と内容の取扱い

P.38～P.41

ウ 実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す事項について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、英語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にされた体験的な言語活動を行うこと。

エ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

学校における全ての教育活動と外国語活動を積極的に結びつけることが大切！

3 指導計画の作成と内容の取扱い

P.41～P.43

オ 外国語活動を通して、**外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化**についても併せて理解を深めるようにすること。言語活動で扱う題材についても、我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとする。

カ 障害のある児童などについては、**学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫**を計画的、組織的に行うこと。

新学習指導要領総則に入れられた事項

キ 学級担任の教師又は**外国語活動を担当する教師**が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、**ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材**などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

P.43 3段落目

学級担任や外国語活動を担当する教師が中心となって
外国語活動を進めることが大切！

3 指導計画の作成と内容の取扱い

P.43～P.45

(2) 内容の取り扱い

ア 英語でのコミュニケーションを体験させる際は、児童の発達の段階を考慮した表現を用い、**児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定**すること。

児童にとって身近なコミュニケーション場面を設定し、
児童が積極的にコミュニケーションを図ることができるようにする。

イ 文字については、児童の学習負担に配慮しつつ、**音声によるコミュニケーションを補助するもの**として取り扱うこと。

外国語活動の指導：音声によるコミュニケーションを重視する。
文字の指導：文字の名称(a=ei c=si:)の読み方を扱い、文字に慣れ親しませる。

ウ **言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるもの**であることを踏まえ、ジェスチャーなどを取り上げ、その役割を理解させるようにすること。

ジェスチャーや表情などを手掛かりとすることで、相手の意図をより正確に理解
ジェスチャーや表情などを加えて話すことで、自分の思いをより正確に伝えることができる